

# Daily Report (号外)

## ～FOMCの結果について～

### 概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、11月1-2日のFOMC(米連邦公開市場委員会)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を3.00-3.25%から3.75-4.00%へ、4会合連続で0.75%引上げることを見事決定しました。

声明文では、これまでのフォワードガイダンスを踏襲し、「誘導目標の継続的な引上げが適切であると見ている」との表現を維持しつつ、新たに「今後の誘導目標の引上げペースを決めるにあたり、委員会は金融政策の引締め効果や、金融政策が経済活動やインフレに影響を与える時間差、そして経済・金融情勢を考慮する」との一文を追加しました。

パウエル議長は記者会見で、次回からの利上げ幅の縮小について議論したことを認めた一方で、金融引締め姿勢を当面維持する必要があることを強調するとともに、労働市場やインフレ率の状況を踏まえるとFF金利の到達点は9月の会合で示したときよりも高くなる可能性を示し、インフレ抑制への強い意志を改めて示しました。

### 市場の反応

FOMCの結果を受けて、米国市場は一喜一憂する展開となりました。利上げペースの減速を示唆した声明文を受けて、NYダウは一時前日比400ドルあまり上昇、米国10年国債利回りは4%以下まで低下する場面もありました。しかし、パウエル議長が記者会見で、金融引締めの期間が長期化する可能性や、FF金利の到達点が高くなる可能性について言及するなど、タカ派な姿勢を示したことを受けて、米国市場は反落。NYダウは前日比505.44ドル安の32,147.76ドル、米国10年国債利回りは前日より6bp高い4.10%で終わりました。外国為替市場では、ドル円は一時145円台まで円高が進みましたが、パウエル議長の記者会見後、147円台後半まで買い戻されました。

#### NYダウの推移



#### 米10年国債利回りの推移



(期間)2022/1/1～2022/11/3、(出所)Bloomberg

運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではありません。

## 評価及び今後の見通し

今回のFOMCは、声明文のフォワードガイダンスとパウエル議長の記者会見に注目が集まりました。10月21日にウォール・ストリート・ジャーナルが利上げペースの減速に関する記事を配信したことを受けて、米国債利回りは上昇が一服、株価は大幅に上昇していました。今回、実際に利上げペース減速を示唆する一文がフォワードガイダンスに追加されたことを好感し、株は一時上昇しましたが、パウエル議長のタカ派な記者会見を受けて、株価は下げへと転じました。FRBが利上げペース減速を示唆する際は、株高を招かないよう、引締め姿勢を同時に強調するだろうとの見方は、民間の一部エコノミスト達のレポートでも既に指摘されていました。それにも関わらず、一時株高となる場所に市場のFRBハト派転換期待の高さが伺えます。FRBとしては、市場が乱高下したことは不本意ながら、株安で終えたことに安堵しているのではないかと思います。

今後の見通しですが、フォワードガイダンスを修正したことで、次回のFOMCの利上げ幅は柔軟に決定できるようになりました。ただし、足下の堅調な労働市場や高止まりしているインフレ率を踏まえると、FF金利の到達点が上方修正され、高水準で長期間維持される見通し(ドットチャート)が示される可能性があります。インフレ抑制があまり進展していないことから、FRBは金融引締め姿勢を今後も暫く維持するでしょう。

その結果、市場では金利上昇圧力が再び強まり、株価が弱含む展開となりそうです。長期金利は、大幅利上げや量的引締めによる需給悪化要因が上ぶれ要因となる一方で、長期インフレ期待の安定や将来の景気悪化観測が上昇を抑制し、やや広いレンジでの推移を予想します。株式は、利上げや長期金利の上昇によって景気後退への警戒感が強まっていることが影響し、利上げの最終着地が見えない間は方向感が定まりにくい展開を見込んでいます。

## (ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
11/8	米国中間選挙
11/23	FOMC議事録(11月分)
12/13-14	FOMC(米連邦公開市場委員会)